

鶏ふん堆肥化時に発生する臭気の軽減を目指す試験を開始

鶏ふんを縦型密閉堆肥化※装置を用いて、堆肥化する際に発生する高濃度アンモニアは、既存の脱臭手段で処理することが難しく、新たな対策が求められています。そこで、当センターでは排気中の炭酸ガスとアンモニアの反応を水中で促進することにより、アンモニアの放出量を削減する装置の開発を目指しています。

5月23日に舞鶴市の養鶏場にて、アンモニアおよび炭酸ガスの水への吸収速度を測定するため、実験装置による回収試験を開始しました。

今後は、水中のアンモニア濃度によりアンモニアの吸収速度がどのように変化するか等、実機の設計に必要なデータを収集していきたいと考えています。

※ 縦型密閉堆肥化：

鶏ふんを断熱密閉された円形の発酵槽内で、攪拌・通気を行い、微生物による発酵を促進させることで堆肥化する方法のひとつ。



縦型密閉堆肥化装置



アンモニア回収の様子